

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 78

学校名・団体名	亀岡市立千代川小学校
HPアドレス	<a href="http://www.el.city.kameoka.kyoto.jp/chiyokawa/">http://www.el.city.kameoka.kyoto.jp/chiyokawa/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	主体的に考え、進んで表現し、学び合う児童の育成

〈本校の児童の課題と研究主題及び研究の目的〉

- ・本校児童の課題は、ことばを介した表現力やコミュニケーション能力の弱さである。自分の考えを話すことに苦手意識を持っている児童は少なくない。場に応じたことばづかひや的確な言い方で自分の考えを伝えることに弱さがある。このことは自信や自己肯定感を高めにくいことにもつながる。
- ・告示された新学習指導要領で問われることは、「何ができるようになるか」「何が身に付いたか」である。思考力を培い自分の考えを持ち、その考えをことばの力を駆使して表現し対話的で深い学びにつなげる力をもつことがこれからの時代を生きる児童には必要である。そこで、上記研究主題に「思考力・表現力・コミュニケーション力を高める国語科の授業づくり」と副主題をつけ、授業充実を図る中で児童の学力充実を目指す。

<活動・研究報告>

1 研究内容

(1) 授業実践による研究活動

- 国語科の「説明文」に対象を絞り、児童の思考力・表現力・コミュニケーション力の向上を目指した。
- 下記の表は各学年 1 回ずつ取り組んだ全体授業研究会での授業のポイントと今後に向けての方向性を示している。尚、ここには掲載していないが、全員が一人 1 授業の授業公開を基本として授業力向上に取り組んだ。

実施日・学年組・単元名	授業のポイントとこれからの授業づくりで考えていきたいこと
6月 20日(火) 4年生 「動いて、考えて、 また動く」	○授業規律の確立とクラスの学習へ向かう雰囲気づくり ○グループ討議のあり方と持ち方(ペア→全体、組織の仕方) ○ワークシートの工夫(ユニバーサルデザインの考え方を活かす) ○簡単から複雑へ(学習の積み重ね⇒既習事項を用いた学習、振り返り)
7月 4日(火) 1年生 「くちばし」	○学習規律の徹底(発表・発言) ○ユニバーサルデザイン(マスの準備⇒書く…作文)、スモールステップ ○ワークシートとヒントカード(ヒントシート) ○発表(発言)の工夫 ○グループ学習のあり方(ペア学習)
10月 11日(水) 2年生「「どうぶつ園 のじゅうい」	○ねらいと活動の明確化を図る(教材文に立ち返る・ことばによる板書) ○動作化の有用性 ○意見をからませる(場面設定・経験や自分ごととしての捉えがあるか)
11月 1日(水) 3年生 「すがたをかえる大豆」	○説明文の構成(初め・中・終わり)や段落相互の関係(接続詞)への気づき ○グループ活動のあり方の明確化 ○ワークシートの活用
12月 1日(金) 6年生 「鳥獣戯画を読む」	○話し合えたり考えを受け入れてもらえたりする学習集団としての学級集団 ○資料としての教材文の読み取りの深さ ○グループ活動の持ち方(グループを変えての2段階形式①書きぶりの検討②内容の検討)の工夫がまとめとして「書く」につながる ○教材との距離感を縮める(ネーミングで内容や書きぶりを捉える) ○活動の深まりが学びの深まりにつながる(まとめでの共通理解)
1月 26日(金) 5年生 「想像力のスイッチ を入れよう」	○「何を考えさせるのか」を明確にした発問の工夫 ○教材文や筆者の考えを身近なものに感じさせるための手立ての工夫 ○体験的な学習スタイルと例文の提示が有効に働く (例文には、提示の場面や提示の内容をよく吟味する) ○グループ活動の持ち方 (話し合う内容の明確化…話し合うことで個々の学びが深まるのが大切)

○成果と課題

- ・説明文授業へのアプローチの方法が多様にあることを実感し、教材文の読み取りから最終の個々の書くことを通しての単元のまとめまでを見通しを持って取り組むことができた。
- ・発達段階に合わせたワークシートの工夫を考えることができた。
- ・筆者の書きぶりにネーミングをつけたり、身近な例文を提示したりして、教材文をより身近に感じる手立ての工夫を考えることができた。
- ・「どの場面で、何について話し合えたり考えを交流させたりするか」という、少人数グループ(ペア・3人・班等)での話し合い活動のあり方、持ち方について様々な方法を試行し検討を重ねることができた。これは、児童の思考力・表現力・コミュニケーション力、そして深い学びにつながるものであることから、次年度においても重点課題として、研究とも合わせて授業の中での活かし方を考えていきたい。
- ・見通しを持つことはできたが、「書く」という活動への児童の抵抗感はまだ払拭できたとはいえない。筆者の考えを読み取り、自分の考えを書くところまでの学力向上を目指したい。

(2) 授業を支える活動

- 国語力・語彙力の向上を目指した帯タイム「ことのはタイム」「かがやきタイム」の設定
- 読み取りや要約、また社会事象を身近に感じることを目的に週末宿題として4年生以上の課題である子ども新聞のコラム欄を活用した取組
- 授業に集中して取り組めるように掲示物の貼り方を統一したユニバーサルデザイン化
- 基礎基本の学力充実を目指した各学期末実施の「漢字大会」「計算大会」の取組
- 学年を超えて学びを共有する「学びの広場」の活用
- 高学年委員会活動においての、集会や校内放送での、全校の見本となる話し方

## 2 研究を終えて

### (1) 児童の変容

#### ① アンケートより(全校児童 547人 %にて表示)

	A	B	C	D
(1)授業中に自分の意見を発表しようとしていますか？	(H29) 39.9	36.6	17.9	5.5
	(H28) 34.8	38.6	18.0	8.6
(2)授業中に友達の意見を聞こうとしていますか？	(H29) 62.4	31.5	5.0	1.1
	(H28) 54.0	35.0	9.0	2.0
(3)話し合いの授業は好きですか？	(H29) 45.4	31.5	13.7	9.5
	(H28) 48.4	31.7	14.0	5.9
(4)国語の授業(勉強)が好きですか？	(H29) 39.5	34.9	17.7	7.9
(5)説明文の授業がよくわかりますか？	(H29) 42.2	38.1	13.1	6.5

\* A(そうだ)B(どちらかというとそうだ)C(どちらかというとは違う)D(そうではない)

\* (4)(5)については国語科の研究は今年度からのため、数値は今年度のみ。

#### ② 児童の感想

<授業の中で話し合うことについて>

- みんなの意見がすごいと思う。協力して話すのが好き。グループで話すと良くわかる。(1年生)
- 友達の意見が聞けて、人のことが分かる。(2年生)
- 話すのは楽しいけれど、緊張する。人の意見を聞くのはわくわくする。それぞれ意見が違って聞けるのが楽しい。(3年生)
- 意見を言い合って分かるようになるのがいい。自分と一緒にだと、合っていると思えてくる。(4年生)
- 自分の意見に納得してくれると嬉しいし、出た意見をまとめていくこともおもしろい。(5年生)
- 話し合う活動は楽しい。友達の意見を聞いて分かることがあれば、自分の意見が変わることもある。考えの違いがよい。(6年生)

<国語科の授業について思うこと>

- 初めてわかることがいっぱいある。長い文が読めるようになる。カタカナや漢字が覚えられる。書いたり読んだり楽しい。(1年生)
- いろいろな話があって読むと楽しい。みんなで意見が言い合える。(2年生)
- 国語辞典で調べたりして、新しい言葉が知れる。みんなで答えが出せる。(3年生)
- 使ったことのない言葉が分かる。自分の持っていない意見が持てる。(4年生)
- 一つ一つの段落を解いていくのが楽しい。筆者の考えや情景を読み取ったり考えたりできる。言葉が言い合える。(5年生)
- いろんな人の考えや感じ方が分かる。知識が増えて、社会のことなどが分かる。読書も好き。自分の意見がしっかり話せる。(6年生)

### (2) 教師の学び(成果と今後の研究に向けて)

- 「内容を読む→表現の方法を読む→学んだ方法を使って表現する」という説明文の単元構成がイメージできるようになった。そのことにより、この単元ではこの力を付けさせたいということも明確にすることができた。しかし、内容を読む部分の指導や、児童が作った作品の交流の指導が難しいと感じている。楽しく自分でも表現することができた、というところで終わってしまっている。友達の作品を読んでみて新たな発見や学びがあった、となるような単元の構成や授業の工夫を目指したい。
- 研究を通して学んだことは、その文章を読みたいという意欲を児童が持てるように学習計画をたてることの大切さだ。今まで、段落の順番に内容を読み取ることだけになっていたことを反省した。この単元では、初めに「クラスのオリジナルを作ろう。」と呼びかけて、その参考にするために教科書を読むという流れにした。教科書で勉強したことが自分たちのオリジナルな取組につながるという意識は、教材文の内容を自分達の活動に取り込み活かそうとする姿として児童に意欲として現れた。

### (3) まとめ

国語科の研究を始めて1年目。説明文の授業について教材研究を行い、単元の目標と最後につけさせたい学力を明確にしながら単元構想をして授業に取り組んだ。そして、研究主題の達成にむけて様々なアプローチの方法があることが明らかになってきた。これをもとに次年度は、読みの力を伸ばし、話したり伝えたりしたくなる話し合い活動を活かした国語科の授業づくりを目指していきたい。